

## 競技上の注意と確認事項

### 1 競技規則

本大会は、平成30年度（公財）日本ハンドボール協会競技規則によって行う。

### 2 競技会場

- (1) 競技会場・コートのはさは、以下のとおりとする。
- 長崎県立総合体育館メインアリーナ (38m×20m) ※2面
  - 長崎県立総合体育館サブアリーナ (36m×20m)
  - 長崎市民体育館 (36m×20m)
- (2) 別紙「会場使用上の注意」を遵守して行動する。

### 3 種別及び参加人数

参加人数は、監督1名、役員3名以内・選手15名以内の合計19名以内とする。

### 4 競技方法

競技方法は、各県2位代表と3位代表によるトーナメント方式とする。

### 5 参加資格

参加資格は、実施要項8-(1)~(3)のとおりとする。  
臨時トレーナーについては、別に定める。※16参照

### 6 競技日程・時間

- (1) 競技日程は、プログラムのとおりとする。
- (2) 競技時間は、「前半25分-休憩10分-後半25分」とする。なお、同点の場合は、延長戦を行う。  
方法は、【トス~第1延長（前半5分-休憩1分-後半5分）~7mTC（5名）】とする。  
決勝戦は、正規で第2延長まで行い、7mTC（5名）とする。
- (3) 競技時間の表示は、加算式の電光表示板を使用する。
- (4) 競技終了やチームタイムアウトの合図は、ブザー・ホーン、または笛で行う。
- (5) ①退場者の番号と再入場時間は、オフィシャル席に用紙で表示する。  
②入場の判断は、チームの責任である。記録席から合図することはなく、問いかけられても回答しない。

### 7 大会使用球

大会使用球は、（公財）日本ハンドボール協会検定球を使用する。

- 男子・・・第1日：ミカサ 第2日：モルテン
- 女子・・・第1日：モルテン 第2日：ミカサ

### 8 トス・ユニホーム

- (1) トスは、ユニホーム確認の際に記録席前で行う。立ち合いは、チーム役員・選手のいずれでもよい。  
その際、チーム役員の服装（色）及び臨時トレーナーの有無についても確認する。※11(5), 16(1)
- (2) ユニホームの確認は、第1試合は試合開始30分前とし、第2試合以降は、前試合の前半終了直後、記録席前で行う。その際、試合に着用する全ての種類のユニホームを持参する。調整がつかない場合は、チーム番号の大きいチームが変更する。
- (3) ユニホームについては、下記のとおりとする。条件に満たない場合は当て布等で覆わなければならない。  
その色はユニホームと同色でなくてもよいが、チーム全員が同色とし、同じデザインにする。
- ①番号の大きさ（高さ）は、胸10cm以上・背20cm以上とする。
  - ②基調色として、半分以上が同色でなければならない。例えば、左右上下対称色を用いたものは認めない。
  - ③メーカーのロゴは、20cm<sup>2</sup>以内の目立たないものとする。サポーター等も同様とする。
  - ④背中に氏名等の文字表記をする場合は、大きさ（高さ）10cm以内とする。
  - ⑤チームは、ユニホームとして、シャツ・パンツ・ソックスの色を統一すること。  
なお、ソックスは、色が揃っていればよく、メーカーのロゴなどは問わない。

⑥試合中にユニホームが破損したり、血液が付着したりして、競技を続行できない時は、別のユニホームに着替えなければならない。その場合、異なる番号でも問題ない。また、交代地域にいる別のプレーヤーのユニホームと交換することも許される。

交換の際は、得点や罰則などの公式記録に誤記がないよう変更番号をTDに伝える。

(4) ゴールキーパー

①チームで同色とする。

②コートプレーヤーがゴールキーパーに代わる場合は、登録された同じ番号でなければならない。

併せて、登録されたゴールキーパーと同色のユニホームを着用することは許される。

(5) 身につけられるものについて

①短パンツの下に着用するサイクリングパンツやウォームパンツ（アンダーウェア）は、短パンツの基調色か同色とし、チームで統一していれば着用できる。

②ユニホームの外にアンダーウェアが出る場合があっても、立っている状態で見えなければ正さなくてよい。

③長袖のアンダーシャツ・アーム（ロング）スリーブ等は、ユニホームに使用されている基調色と同色であれば着用できる。

④ふくらはぎのコンプレッション（加圧）サポーターは、靴下と同色であれば着用できる。

⑤複数の部位を覆うサポーター等やメーカーのロゴが20cm<sup>2</sup>以上ものは着用を認められない。

⑥金具入り等、敵味方を問わず他の選手に危害を与えるものについては、その着用を認めない。

⑦眼鏡及びスポーツゴーグル等を使用する際には、固定バンドの装着を必要とする。

ただし、金属製のフレーム等については使用できない。

⑧詳細は、「JHA保護を目的とした装具」を参照すること。

(6) 眼鏡・スポーツゴーグル

眼鏡及びスポーツゴーグルを使用する際は、固定バンドの装着を必要とする。

ただし、金属製のフレーム等については使用できない

9 登録証・公認資格証とチーム役員・選手の確認

(1) 代表者会議で決定し、登録証のあるチーム役員・選手のみが競技に参加・出場することできる。

(2) 交代地域には、チーム責任者（監督）1名を含むチーム役員4名以内、選手15名以内の合計19名以内が入ることができる。

(3) チーム役員・選手の変更については、代表者会議で確認・決定する。

(4) ①トスの際には、TDに登録証を提出する。

提出不可、または不備（写真添付なし等）があった場合は、試合に出場・参加することはできない。

②TDが試合前に交代地域にて、チーム役員・選手及び登録証を確認する。

試合中は、TDが登録証を管理し、試合終了後にTDから両チーム代表者に返却される。

③失格したチーム役員・選手、または、裁定委員会に提訴されるチーム役員・選手には、その場で返却しない。

(5) チーム役員は、試合中に大会主催者が準備した「A・B・C・Dカード」を着用し、試合終了後に返却する。チーム責任者は、「Aカード」を着用する。

10 公式記録用紙

(1) 記録用紙は、公式記録用紙のみとする。

(2) チーム責任者は、試合開始前に公式記録用紙に記載されている「役員氏名・カード、選手氏名・背番号」を責任を持って確認し、サインをする。

(3) 公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

11 交代地域 ☆交代地域：「3.5mラインを始点とし、センターラインから12mの範囲まで」

(1) 各チームのボール等の用具類は、競技開始前にケース等に収納して交代地域内にて管理する。

競技開始後は、ボールに触れることを含めて、ボールの使用を禁止する。

(2) 飲料水は、飲み口の細い容器を使用し、コップの使用を禁止する。

(3) 交代地域では、あらゆる通信機器の使用を禁止する。

(4) 試合中、選手が交代地域内で簡単な準備運動をすることを認める。

ただし、ボールの使用やコート内への指示・応援、立位のままで観戦することは不可とする。

(5) チーム役員は、相手チームのコートプレーヤーと異色の服装でなければならない。

トスの際にユニホームの色が確定した後に、役員の色を確認する。

(6) チーム役員は、原則として座っていなければならない。

ただし、チーム役員1名のみが、戦術的な指示や治療を目的として、交代地域の範囲内で動くことは許される。

(7) 交代地域からは、選手への指示を行い、審判員のジャッジに対する暴言等は厳禁とする。

## 12 チームタイムアウト

- (1) チームタイムアウトは、1試合で3回請求することができ、前後半にそれぞれ最高で2回まで請求することができる。また、試合の後半残り5分間は1回しか請求できず、延長戦は請求できない。
- (2) チームタイムアウト請求カード(グリーンカード)は、チーム役員だけが提出することができる。  
請求する場合は、記録席まで持参する。提出するために、コーチングエリア(3.5m)を越えたらグリーンカードを提出しなければならない、躊躇することは許されない。  
ただし、請求および受け取りと判定のタイミングにより、チームタイムアウトにならない時があるので、その場合は、グリーンカードをチームに戻す。
- (3) グリーンカードは、常にベンチに置いておかなければならない。請求する時のみ、持つことが許される。
- (4) グリーンカードは、TDが直接受け取ってよい。

## 13 休憩時間(ハーフタイム)のコートの使用

休憩時間のコート使用は、次の試合のチーム練習に使用する。

ただしコートの使用時間は、「9分」とし、後半開始までの残りの1分間は、コート整備等の時間とする。

## 14 O・TD, TD, 裁定委員会

- (1) 本大会は、各試合にO・TD(オフィシャルテクニカルデレゲート)1名とTD2名の計3名を配置する。  
ただし、競技第1日は、TD2名のみ配置とする。  
O・TD及びTDは、競技委員長のもとで競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため審判員・全競技役員・補助員と協力して試合を管理する責任者である。
- (2) 本大会に裁定委員会を設置する。委員は、競技委員長・競技副委員長・審判長とする。  
なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。裁定しなければならない事案が生じた場合は、当日中に裁定して関係者に通知する。

## 15 次の試合のチーム役員・選手フロアへの入場

次の試合のチーム役員・選手は、前半が終了するまで、または試合終了後に両チームの挨拶が終了するまでは、フロアへの入場を禁止する。

競技中に次試合の役員・選手が、フロアで練習をしたり、試合を観戦したりすることがあってはならない。

## 16 臨時トレーナー

- (1) 臨時トレーナーとは、役員登録をしていない公的資格を有するトレーナーを指す。  
トスの際には、必ずTDに申告する。席は、交代地域から離れた場所に設置する。
- (2) 臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることや応援・指示はできず、自席での対応のみとする。  
選手は、一時的に交代地域から許可なく離れ、臨時トレーナー席で治療等を受けることができる。
- (3) TDが、試合開始前にトレーナーである資格証の提示を求める場合があるので準備しておく。

## 17 表彰

競技2日目「長崎県立総合体育館」で、準決勝終了後に3位表彰を行う。

また、最終試合終了後に表彰を行う。(男女上位2チーム、計4チームを対象)

## 18 感染症・熱中症対策

大会期間中は、うがい・手洗い・手指消毒等、健康に十分配慮する。

なお、健康上異常がある選手や発熱している選手は、試合に出場させず、速やかに医療機関を受診する。

インフルエンザ等の感染症の診断が出た際には、必ず大会本部に連絡する。

併せて、大会期間中は試合中・練習中はもとより、生活全般で体調管理に留意する。

## 19 危機管理

各チーム・各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備える。

## 20 試合の開始と終了

開始時は、選手全員が交代地域から横1列で入場して、あいさつをする。

終了時は、コート中央に横1列で並んであいさつをし、その後、相手チームとすれちがいがながら挨拶を交わし、相手側交代地域に行き、相手チーム役員にあいさつをする。

## 21 観客席のマナー

中学生の大会は、教育活動の一場面である。各チーム役員は、観客席からの選手への指示や競技役員への暴言等が絶対ないスポーツマンシップに則った大会になるよう観客席(応援)の態度にも気を配る。